武士道

Pride of Japan

第7号

BUSHIDO

～今の日本はこのままでいいのだろうか～

武士道格言

その4「日新公いろは歌」

こ

心こそ戦する身の命なれ
揃ゆれば生き　揃わねば死す

心のあり方こそ、戦いをする者の一番大切なことです。皆の心が一致すれば勝ちます。バラバラであれば負けます。決まりきったことなのです。

え

回向には我と人とを隔つなよ
看経はよし　してもせずとも

死者の霊をなぐさめるときは、敵味方の区別なく弔いましょう。そのときはお経をよんでもよいし、読まなくてもよいのです。

て

敵となる人こそはわが師匠ぞと
思い返して　身をも嗜め

敵となる憎むべき人も、見方によっては自分の教師となることがあるのです。だから憎むべき相手を、時には自分自身の反省の材料として見直すことも、心がけておきましょう。

あ

明けき目も呉竹のこの世より
迷わばいかに　後の闇路は

はっきりと目に見えてわかるこの現在ですら、迷うことが一杯あるのに、まだ何もわからない将来の闇夜のような世界では、なおさら迷うことになるでしょう。それならばいま生きているこのうちに、少しでも明らかに悟りを開くよう学ぶことです。

さ

酒も水　流れも酒と成るぞかし
ただ情あれ君が言の葉

酒を与えても水のように飲む人もおれば、お流れ頂戴程度でもいい気持ちになって、意気込みが盛んになる人もいます。大事なことは、情けのこもった思いやりの言葉をかけることです。

き

聞くこともまた見ることも心柄
皆迷いなり　皆悟りなり

心ここにあらざれば視れども見えず、聴けども聞こえずというように、聞くことも見ることも心の持ち方次第です。時には迷いとなり、時には悟りともなるのです。

ゆ

弓を得て失うことも大将の
心一つの手をば離れず

たとえ武術や戦術にすぐれていても、それを十分に活かしきるか否かは、作戦を指揮統率する者の、心の配り方ひとつにかかっております。

め

回りてはわが身にこそは仕えけれ
先祖の祭り　忠孝の道

先祖を祭るということは、自分の死後に子孫たちが、先祖として自分を祭ってくれることにもなります。それはとりもなおさず、祖国母国に真心を尽くし、両親を敬い尽くすことにも通じるのです。

「日新公いろは歌」とは
「島津家中興の祖」、「日新公(じっしんこう)」と称された、島津　忠良（ただよし）（1492～1568年）が、5年余の歳月をかけ完成させたという47首のいろは歌。神道・儒教・仏教の三つの教えを基に、人としての生きる道、特に武士として守らねばならない道を説いたものである。薩摩藩の「郷中（ごじゅう）教育」の基本の精神となったといわれる。孫にあたる島津義弘も多大な影響を受け、その後も薩摩武士、士道教育の教典となったこの「日新公いろは歌」は、現代の私たちにも通じる多くの示唆を含んでいます。

解説文引用文献:清水榮一著『島津日新公の教え』(PHP研究所刊)

巻頭言

武士道と茶道

武士道協会 会長
茶道裏千家 十五代家元
千 玄室

昭和十八年秋、私は同志社大学学生の身でありましたが、徴集され海軍第十四期飛行専修予備学生として採用、一飛行科士官として第二次世界大戦に参戦することとなりました。私が出征するその朝、父であり裏千家第十四代家元であった淡々斎宗匠から利休御祖堂で、利休居士が切腹された愛刀粟田口吉光を示され、利休の血をひいているあなたが決して後れをとることがないように、しかし、無駄な犬死をしないよう自分を大切にして、命あらばふたたびこの所に帰られよと言われた言葉は忘れられません。そこに、利休居士以来、武士道という精神基盤の中で培われた歴代の宗祖は、茶人であり武家でもあり、そうした歴代の遺された千家の世界観の片鱗を見たのであります。

「人は二人以上になると傷つけ合うことがしばしば起こる。それを防ぐのが心の和である」と、千利休は一盌の茶をもって戦国の武将たちに説いたのであります。その精神を『和敬清寂』と四文字で表しています。

茶室には平和と和の実践のため、武士の魂と言われる刀も持って入ることはできません。そこで入り口の刀掛けにかけ、丸腰で扇子のみ持ち、すなわち和の心をもって狭いにじり口より入室するのです。同席するものは互いに敬い合い差別や区別は一切許されない。そして、一盌の茶を心ゆくまで楽しむ。静浄な雰囲気を醸し出す主と客の交わりこそ、不動の信念すなわち寂を生むのです。このような場をつくることによって反目や憎しみが失せ、和らぎの道へと進んでいけるのです。茶道の本来の教えがそこにあり、世界中の人々がこうした場をつくり、心から打ち解け合ってもらえれば、もっと平和がつくり出されるのではないだろうかと考え、私は「一盌からピースフルネスを」というターゲットを揚げて第二次大戦後、六十六年間〝茶道を通じての平和外交〟を続けてきました。そして、この思いは私の中で武士道精神と茶道が一体化したものとなっているのです。和敬清寂の茶道の教え、精神こそ、武士道にふさわしい理念であることを知っていただきたいと思います。

●プロフィール
1922年生。哲学博士。文学博士。1964年千利休居士十五代家元を継承。裏千家今日庵庵主として宗室を襲名。2002年嫡男に家元を譲座し、千玄室に改名。「一碗からピースフルネスを」の理念を提唱し、国際的な視野で茶道文化の浸透と世界平和を願い、各国を歴訪。現文部科学省社会教育審議会委員、中央教育審議会委員等の公職を歴任。現在の主な役職に日本・国連親善大使(外務省)、日本国観光親善大使(国土交通省)、ハワイ大学教授、公益財団法人日本国際連合協会会長、社団法人日本馬術連盟会長。文化功労者国家顕彰、文化勲章、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、UAE連邦独立勲章第一級等受章。国内外で名誉市民、名誉博士号を多数受けている。

「大和心の雄々しさ」は武士道に通ず

武士道協会 副理事長　山谷えり子

昨年三月十一日に発生した東日本大震災から一年近く経過いたしましたが、未だ被災地で不自由な生活を余儀なくされている状況下、つとめて明るく懸命に歩みを進める被災者の方々のお姿に、国会議員として復興に必要な法案を一日も早く、そして一つでも多く成立させることが急務と日々努めております。

今回の未曽有の大震災では、私たち日本人が、忘れかけていたDNAを改めて再認識することができました。

震災直後の十六日、天皇陛下から国民にむけた次のようなビデオメッセージを賜りました。

「……何にも増して、この大災害を生き抜き、被災者としての自らを励ましつつ、これからの日々を生きようとしている人々の雄々しさに深く胸を打たれています。……海外においては、この、深い悲しみの中で、日本人が取り乱すことなく助け合い、秩序ある対応を示していることに触れた論調も多いと聞いています。これからも、皆が相携え、いたわりあって、この、不幸な時期を乗り越えることを、衷心より願っています。……被災した人々が、決して希望を捨てることなく、体を大切に、明日からの日々を生き抜いてくれるよう、また、国民一人ひとりが被災した各地域の上に、これからも長く心を寄せ、被災者と共に、それぞれの地域の復興の道のりを見守り続けていくことを、心より願っています」

このお言葉の中の「雄々しさ」という言葉に、君民一体で受け継がれてきた大御心の深い意味があると考えます。

昭和天皇は終戦直後の歌会始で「降り積もる　深雪に耐えて色変えぬ　松ぞ雄々しき人もかくあれ」（深い雪に覆われても、時が来れば青々と茂る松の様を雄々しい日本人に喩え、今の苦しみを耐えて、再び隆盛とならんことを鼓舞した）と、また、明治天皇は日露戦争に向かう国難の中で「敷島の　大和心の雄々しさは　事ある時ぞ　現れにける」（日本人らしい自然で素直な心で、平時には雄々しい気骨や気概はわからないが、ここぞという時にはっきりと現れる）と詠まれていらっしゃいます。

本来の、〝猛々しい、男らしい〟という意味ではなく、そこには武士道に通ずる静謐な中に、強さとしなやかさをあわせもち、質実剛健、崇高な精神をもつ日本人の特質を象徴的に表しているように思えます。

長い歴史の中で、日本の精神文化の礎となっている「武士道」――。

その精神は、深雪に耐え、事ある時にしっかりと具現化されていくことに気づかされ、魂がゆさぶられる思いがいたしました。

武士道協会の副理事長としての大役を仰せつかっておりますが、塩川理事長はじめ役員の皆様方と協力しあい、一人でも多くの方々に武士道を感じていただけるよう努めてまいりたいと思います。

●プロフィール
1950年生。聖心女子大卒。出版社勤務を経て、サンケイリビング新聞編集長。2000年衆議院議員、2004年参議院議員(全国比例区)、内閣府大臣政務官、内閣総理大臣補佐官(教育再生担当)、自民党女性局長などを歴任し、現在は、自民党SC内閣府特命担当大臣(少子化対策・男女共同参画・消費者・食品安全)。領土議連会長、拉致議連副会長なども務める。主な著書に「日本よ、永遠なれ」「人生について父から学んだ大切なこと」他多数。

【寄付のお願い】

認定NPO法人申請基準を満たすための寄付をお願い致しております。

1．一口 3,000円のご寄付をお願いいたします。
2．振込先（寄付専用口座）：三菱東京UFJ銀行　新宿新都心支店
　普通０１６０５０９　　名義：NPO法人武士道協会
3．寄付申込書（同封の寄付であることを証明する書類・あるいは協会サイトよりダウンロード）を
　FAX ０３-５３２５-１６１８へ、或いは郵送にて、〒163-1320 東京都新宿区西新宿6-5-1
　新宿アイランドタワー20階　武士道協会宛ご返信ください。

100名以上の方に支持されているNPO法人である証として、1口3,000円の寄付が100名分集まりますと「認定NPO法人」の申請基準が満たされます。認定NPO法人になりますと、寄付金が免税扱いとなります。会員さんの社会貢献の夢を武士道協会が後援することで実現させることを協会の目標とし、地球が平和で美しい星となるよう貢献して参りますので、何卒ご協力賜りたくお願い申し上げます。

「原点回帰」現代社会に生きる武士道

武士道協会
常務理事兼事務局長　本多百代

〝宇宙の法則に則り、地球も生命体であることを意識し、天地自然の理法と共に生きることが「大和心・武士道」の根幹です。日本国は神道・儒教・仏教の国で、八百万の神々が守神です。太平洋の懸け橋となった『武士道』の著者である新渡戸稲造は平和を愛した敬虔なるクリスチャンであり、妻はアメリカ人でした。新渡戸『武士道』は外国に対して、「日本人が宗教教育なくして如何に道徳を教えているのか」ということを説明するために英語で書いたものです。それを戦後の初代東京大学総長である矢内原忠雄が翻訳しました。武士道は右にも左にも偏らず、こよなく平和を愛する日本が世界に誇る生き方です。宗教宗派、政治政党も超えた世界に必要な心のお行儀・マナー(礼)です〟(名刺裏面掲載文引用)

天孫降臨の時、建御雷命(たけみかづちのみこと)(鹿島神宮祭神)と経津主命(ふつぬしのみこと)(香取神宮祭神)は出雲の大国主命(おおくにぬしのみこと)と国譲りの交渉の際、建御名方神(たけみながたのかみ)の命乞いを受け入れて許しています。仁徳天皇は、民家の煙突から煙が出ていないことから貧窮極まる現状をお察しになり租税を免除。雨漏りする御所の屋根の葺き替えも民家から煙が出るまで待つ仁政を施しました。源平の戦で熊谷直実の「敵に後ろを見せるのは卑怯」という言葉で取って返した平敦盛。負けた敦盛を直実は逃がそうとしますが、名誉を守り首を差し出した敦盛の悲話。

上杉謙信が武田信玄との戦中、今川方に塩を止められて困却極めている信玄に「塩のための戦ではない」として敵に塩を送った逸話。その子孫は、領地返上寸前の米沢藩を、教育と産業の改革、自らを手本とした倹約で財政を立て直した上杉鷹山。米国のケネディ大統領とクリントン大統領から尊敬する政治家として名を挙げられました。命も名誉もお金も要らない山岡鉄舟だからこそ信用がおけると西郷隆盛に言わせ、江戸無血開城に向けて敵陣突破をした山岡鉄舟。大東亜戦争中の艦長・工藤俊作少佐。敵も味方も同じ人間、困却極める者と戦うは公正ではないとして、漂流している四〇〇名のイギリス海軍兵を救助したのです。この美談は救助されたイギリス兵から後世に伝わりました。最近では、東日本大震災で訪れた外国人記者に、食べ物がない被災者が自分たちの食糧を差し出しました。実践された武士道を挙げたら枚挙に暇がありません。このように武士道は、時を超越し脈々と受け継がれ、今もなお育まれ続けているのです。

しかし、その反面残念なことに、いつの時代でも武士道を自分本位に解釈し、自己に都合よく使う人がいるのも事実です。その最たるものが大東亜戦争中の陸軍で、今もなおその印象が時を超え独り歩きしているように感じてなりません。近々では「惻隠の情」と「情に流される」を、「信念を持って生きる」

と「頑固に我を通し言い張る」を、「苦言を呈す」と「我欲を満たすため文句を言う」等、似て非なるものを混同して、悪気なく自己都合よく使う例に多々巡りあいます。戦時中に帝国陸軍が、天皇陛下のお名前を、同じように自己都合よく持ち出したことから誤解が生じ、現在一部の人たちから皇室存続の有無が口にされるという、あるまじきことが引き起こされたと思うのは私だけでしょうか。

一点の視点からのみで判断をせず、曲解される以前に立ち返り、大局から多角面で武士道を見直す必要を改めて申し上げたく、武士道協会を立ち上げた次第であります。そこで、そろそろ原点回帰してはいかがでしょうか。

武士道は、冒頭にも書きましたように、道徳、つまり徳を積む生き方です。徳とは、惻隠の情で生きること、他者の苦しみや悲しみを我がことと振り返る心の温かさです。この接し方は、相手が申し訳なくなり敵意を抱けなくなる、相手が有り難くて攻める気が起きなくなる生き方なのです。このような気持ちを相手に抱かせることが真の武士道であり、大和心ではないでしょうか。山岡鉄舟をはじめ西郷南洲等真の武士は相手に武器を抜かせないほどの気迫と惻隠の情を兼ね具えていました。鉄舟は南洲に徳川慶喜を一人差し出すことはできないと断った時に、立場を替えて考えて欲しいと、南洲の惻隠の情に訴えています。

最近は特に惻隠の情が激減し、自己愛に満ちて人付き合いに苦しむ人々に接する機会が多くなりました。人付き合いを楽しむには、「他者を否定せず、且つ己の信念を貫く」必要があります。それには、調和を図る努力と複数の視点を持ち深慮することが必要となり、この時にこそ惻隠の情が必要なのです。マニュアル判断では対応できないのです。誰もが武士道を実践したならば、喧嘩も戦争もなくなるでしょう。武士道は時を超え語り継がれてきた「美しい地球を多くの生き物が分け合い生きる和の生き方」であり、日本発世界を平和に導く文化なのです。

●プロフィール
人材育成コンサルタント。社員研修のラインエイジ社代表取締役社長。武士道協会人間力向上セミナー講師。武士道さむらいスクール講師。大学特別講師（中央大学、大妻女子大学、神奈川大学、大東文化大学 etc）を歴任。教育委員会、ロータリークラブ、青年会議所、商工会議所、中小企業同友会、農協、新聞社、一般企業、倫理法人会、などで講演。2010年全会津文化祭会津エンジン講師。中日研修センター（中日新聞名古屋本社販売局）で組織開発と人材育成を8年間、その後、中日新聞東京本社企画開発室にて企業内研修講師として4年間勤務。2005年人材育成&研修会社のラインエイジ社を起業し代表取締役社長就任。2007年NPO法人武士道協会を創設し、常務理事兼事務局長に就任。

★世界最古の国、日本!!@インターネットテレビ レギュラー出演

インターネットテレビ、あっ！とおどろく放送局の「世界最古の国、日本！」に本多百代常務理事が2012年1月より、武士道を若い世代の方々に知っていただくためにレギュラー出演をしています。毎月2回位（第1週目、4週目が多くなる予定）の割合で出演しております。

神道、神社、太鼓など日本古来のさまざまな伝統行事などを知識として得られる素晴らしい番組です。生放送の一週間後より、インターネットのオンデマンド放送でいつでも観る事ができます。多くの方にご覧いただき、コメントをいただけたら幸いです。過去のゲスト出演：2011年7月29日、12月23日
google検索：「あっ！とおどろく放送局」→「14chためになる」をクリック→「世界最古の国、日本！」

特別寄稿

日本人の気質と世界平和・人類和楽への貢献

東京外国語大学 名誉教授　奈良　毅

世の中に完全無欠な人がいないように、民族や国民にしても完全無欠な集団は存在しません。しかし、それぞれの個人や集団が、意識していようとなかろうと、常により完全なものになりたいと努力していることも事実です。

昨年の三月十一日に発生した東日本の地震と津波により、たくさんの人命と資産が失われましたが、ただそれだけに止まらず、福島の原子力発電所の崩壊という想定外の事故により、その近辺に住む住民のみならず、東京をはじめとする関東一円の圏内に住む数千万に上る人々の生活が脅かされる結果となっています。

それについて、国内的には、復興計画の遅れや、被災者援助の不手際について、政府の対応のまずさや東京電力の不誠実さが大多数の国民によって批判されているものの、国際的には、むしろ被災者たちのとった行動のすばらしさ、たとえば自制心や思いやりや公共心や規律ある行動が賞賛され、日本人なら必ずや素晴らしい復興を遂げるに違いない、という期待もされています。

そのどちらも本当の日本人の姿であり、資質でありますが、援助してくれた世界中の人々への恩返しとして、今後私たち日本人は、この国難にどう対処し、どう世界中の人々の期待に応え、地球市民としての責務を果たしていくべきなのでしょうか。

その鍵は、日本人が本来持っている「職人気質・武士道・大和心」をもう一度思い起こし、それらを発揮し努力し続けることにある、と私は信じています。

ところで、前世紀の後半に第二次世界大戦を経験した日本人はもとより、戦後、政治的自立を手にした発展途上国の人々も、一様に経済的発展と物質的豊かさの実現を、幸福の尺度にしてきたように思います。特に戦後の日本人は、そうした幸福を手に入れるため、勉強をし、がむしゃらに働き続けました。その結果、日本人は戦争で失った建物や施設を復興したばかりでなく、優秀な工業製品を次々と生み出し、外国に輸出販売することによって、努力目標であったアメリカ人並みの豊かで便利な生活を実現いたしました。

その後バブル経済の破綻や世界同時不況の荒波を受け、国民総生産は今や米国と中国に次いで第三位にまで後退しましたが、今なお個人の平均貯蓄高は世界一の地位を保っています。しかし、こうした経済的・

物質的豊かさの実現と引き換えに、日本人は物を大切にする心や、大自然や他人に対して感謝する心を忘れてしまいました。その代わりに、苦労することなく、効果的に大金を手にする方法を求め始め、勤労に基づく生産活動よりも、土地の売買や株の操作や先物取引などの金融手段を通じての大金獲得に、関心を向けるようになってしまったのです。また、そうした過程を経て、工業製品を大量に安く生産する方法の一つとして、電気エネルギーを恒常的に安く供給できる方法の一つとして、原子力発電の利用を、日本の経済界や政界の有力者が考えついたことにも言及しておく必要があります。

日本人の「ものづくり」の基本精神である「職人気質」とは、「職人が自分の作り出す物に全身全霊を込め、それを使用する人がその作品の美しさと機能の素晴らしさに感動することを期待して、物を生産する心」のことを言います。自分の作品を販売することによって大金を獲得することなどは、職人の念頭にはなく、むしろ、自分の作品が使用者を喜ばせ感動させ、それを作ってくれた人に感謝することを、職人はものづくりの最高の報酬と考えて（「心映え」のことを言います）いたのです。

また自分が不意に悪漢に襲われ危害を加えられそうになったとき、身をとっさにかわし、攻撃者の力を利用して相手を倒し、危害を加えようとした者に、その行為の無益さを自覚させ、二度と他人に危害を加えようとする心を失わせる――、これこそが日本の本来の武道精神であり、それは今なお連綿として伝えられている日本古武道にも、近年植芝盛平氏によって創設された合気道にも生きており、まさしく「武」は「戈」を「止める」行為に他なりません。今回東日本の人々が経験した自然災害にせよ、福島の原発事故にせよ、そうした緊急被害をいかに受け止め、二度とそういう緊急事態を起こさせぬように、自然にも原発関係者にも働きかけること、そうした精神と行為とが日本の伝統的武士道に叶うこととなるのではないでしょうか。

最後に、日本人の持つもう一つの伝統的精神である「大和心」とは、「単に人間同士の意思疎通のみならず、草木石土鳥獣虫などを含む地球上に存在するあらゆるものと意思疎通を図り、互いに生かし生かされ合って生存していく心」を意味します。そうした心の働きは、日本語を日常使って生活している人ならばだれでも無意識のうちに行っており、事あるごとに、特に異常事態が起こった時ほど顕著に表れてまいります。

こうした日本人の伝統的心の働きや行動は、必ずや今後の災害復旧や原発被害への対処の仕方や、経済・社会生活の観念と行動に反映されることでしょうし、そしてまたそうした生き方は、単に日本社会のみならず、世界中の人々の生き方にも有意義な影響を及ぼし、天地平和・人類和楽の世の実現に寄与することでありましょう。

●プロフィール
1932年秋田市生まれ。東京外国語大学名誉教授。清泉女子大学元教授、秋田大学学芸部国語国文学科（学芸学士）、東京大学大学院人文学科研究科言語学科（文学修士）、インド共和国カルカッタ大学院人文学研究科比較言語学科（哲学博士）
1964年より30年間、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所勤務、現在同大学名誉教授。その間、国内外の7大学で教授・非常勤講師歴任。1995年より8年間、清泉女子大学勤務同大学言語文化専攻主任教授、人文科学研究所所長、地球市民学科主任教授、（財）日印協会顧問、（財）オイスカ顧問団長、日本バングラデシュ協会顧問、（財）ラボ国際交流センター評議員、バングラアカデミー終身会員、日本言語学会維持会員、日本南アジア学会会員。
活動：祈りによる広島平和市民運動代表、世界平和と少数民族の言語文化及び球環境保全のための運動

特別寄稿

大震災の被災地に立つ

宮城県塩釜市　大木騏一郎

東日本大震災から八カ月が経とうとする十一月五日、六日の両日、武士道協会常務理事・本多百代氏をはじめ、七名の方々が被災地訪問のため来塩されました。そこで塩釜地区二市三町再発見紀行代表の渡邊純一氏、七ヶ浜町議会議員の渡邊淳氏らの協力を得て、東松島市と七ヶ浜町の被災地を案内いたしました。以下はその同行記です。

初めに、白砂青松の美しい海水浴場として知られた東松島市の野蒜（のびる）海岸に立ち寄ったのですが、防潮堤は黒いシートで覆われ、松はあちこちに倒れたままでした。残った松も塩害のためか、葉の色がくすんで見えました。津波はこの海岸から一気に内陸部を襲い、浸水域を広げていったようです。

次に訪れた同市大曲地区には、震災の爪痕が生々しく残っていました。陸に打ち上げられた船、倒壊したままの家屋。地盤沈下のためか、道路は至る所で陥没し、朱塗りの鳥居は土中に深く埋もれていました。私たちは、道の辺に手向けられていた花に手を合わせ、その場を後にしました。

翌日は、ご自身も被災者である渡邊淳氏の案内で、七ヶ浜町を訪れました。外洋に面した七つの浜からなるこの町は、どの浜もほぼ壊滅状態でした。俯瞰すると、土台しか残っていない浜辺の宅地の向こうに、海は何事もなかったように凪（な）いでいました。

被災地では、瞬時に多くの尊い人命が失われ、今なお行方不明の方々の捜索が続いています。何とか助かった人たちも、生活の基盤を根こそぎ奪われ、苦難の只中にいます。私たちは現地訪問の合間を縫って、犠牲者の鎮魂と震災復興への思いから、松島瑞巌寺（ずいがんじ）と鹽竈（しおがま）神社に足を運びました。また、渡邊純一氏により「貞観の津波と平成大津波」のプレゼンテーションを受ける機会を得ました。氏は豊富な史料と映像を駆使して大震災の模様を解説してくれました。

それによると今から千百年余り前の貞観十一年（八六九）、陸奥（みちのく）を巨大な津波が襲いました。六国史の一つ『日本三代実録』には、その様子が次のように記されています。「陸奥国、地大いに震り動（ふる）へ、流光昼の如く隠映す。（中略）野原（はら）の道路（みち）も惣（すべ）て滄冥

（うみ）となり、船に乗るに遑（いとま）あらず、山に登るにも及び難くして、溺れ死ぬる者千許り、資産（たから）も苗稼（なえ）も殆（ほとほ）とひとつ遺（のこ）るもの無かりき」。史書は、自然の猛威は人間の「想定」をはるかに超えるものだ、ということを、千年の時を超えて、しっかりと語り伝えていたのです。

普段、私たち日本人は、美しい自然の懐に抱かれ、その豊かな恵みに感謝して暮らしています。しかし、自然はひとたび牙をむくと、途方もない力で人間に襲いかかります。自然の持つこの二面性と、私たちはどう向き合い、どう生きていけばいいのでしょうか。

この難問を前にしたとき、日本独特の「自然観」や「無常観」と共に、「武士道」についても考えなければならないと思うのです。特にその中心にある「時の流れを超越し、天地自然の理法と共に生きる」とは、どのような生き方なのかということを、自らに厳しく問い続ける必要があるように思いました。

僅か二日間という限られた時間でしたが、皆様と「武士道」のこころについて語り合えたことを大変嬉しく思います。本当にありがとうございました。

なお、お預かりした支援金は、ＮＰＯ法人「ＪＥＴＯみやぎ」（For Japan Earthquake &Tsunami Orphans in Miyagi）に寄付することにいたしました。震災で親を亡くした子供たちに寄り添い、息の長い支援活動をするこの団体に共鳴したからです。この場をお借りして、関係各位に心から御礼を申し上げます。

わが国はいま、震災からの復興と原発事故の収束という難問に苦しんでいます。しかし、明けない夜はありません。ご一緒に力を合わせてまいりましょう。

山は崩れ 海かたぶくも みちのくに
朝日子けふも 昇るを見たり

合掌

●プロフィール
横浜市保土ケ谷区出身、宮城県塩釜市在住。
東北大学教育学部卒、東北学院中学・高等学校で42年間教壇に立つ。
「高校生のためのーみやぎ文学」（共著）、歌集「壺中天」「東北学院東二番丁賛歌」「大路ひとすじに―東北学院東二番丁青春譜」など

特別寄稿

医道についての管見

武士道協会 医道の会
委員長 沢 丞

この度、武士道協会「医道の会」を担当させていただくことになりました沢と申します。私は特に武道を習練したことはありませんが、曾祖父が幕末に榎本武揚とともに「蝦夷共和国」に参画していたことから、武士道、あるいは「日本という国、日本人のありよう」について興味を抱いておりました。

私は現在、市中病院において糖尿病診療に従事しています。マスメディアでの報道でご存じの通り、糖尿病は今や日本人の国民病とも言える状況にあります。糖尿病の治療にはもちろん薬物療法もあり、私が医師になった一九八五年当時から比べてきめ細かい治療が行えるようになっています。しかし、基本は食事や運動などの生活習慣改善にあるのは周知の事実ですが、実行するのが難しいというのも糖尿病診療での常識です。ではなぜ難しいのか、どうすればよいのでしょうか？

糖尿病診療において以前は、(保険診療上は今でも)食事指導、運動指導という言葉が使われました。私はこの「指導」という言葉に違和感があります。科学的根拠に基づいた診療が重視されるために、まず目の前の患者ではなく科学的知識が重視されがちになります。私はそういう抽象的な「知識」による指導だけではなく、患者の「人生」に寄り添った形での「智慧」の創出を患者とともに考えたいと思っています。そのためには自分と患者とが同じになる、すなわち「自他一如」とならなければいけません。その一連の所作を分割して傾聴とかエンパワーメントとかカウンセリングとかコーチングと呼んでいるのだと考えます。

「医は仁術であるべき」という言葉はよく使われますが、「仁術とは何か」について論考された文章に巡り合うことは少ないです。仁術は算術の反語、すなわち報酬度外視で働くということと同義ではないと考えます。仁術とは「人が人としてあるべき道」であり、「自分の命も患者の命もすっかり同じに大切であると自覚すること」だと考えます。ここにおいて初めて、抽象的知識は具体的な智慧に変換できるのだと思いますし、それができることが糖尿病診療のプロフェッショナリズムだと思っています。

糖尿病を始めとして高血圧、脂質異常症(高脂血症)、がんなどは「生活習慣病」と呼ばれています。ここでの「生活習慣」とは畢竟(ひっきょう)、その人の人生そのものと言えます。単なる抽象的知識だけによる生活習慣「指導」は一歩間違えるとその人の人生、すなわち「道」を否定することになりかねません。翻ってその人の人生に寄り添った形での智慧が生まれれば、たくさんの薬を使うことなく糖尿病を落ち着かせることができることも多く経験してきました。

最後にとても大事だと思うことは、患者自身も本来の「仁術」たる「医」、すなわち「医道」を理解し、探求していかなくてはならないということです。私自身、これからも「医道」の探求、すなわち「行」を進めながら、患者ともに考えていきたいと思っています。

●プロフィール
富山医科薬科大学卒業・富山医科薬科大学大学院医学研究科修了。現・川崎幸病院副院長、内科部長。専門は糖尿病。日本内科学会認定総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、日本病態栄養学会認定NSTコーディネーター、同評議員、インフェクションコントロールドクター(ICD)、独立行政法人国立健康栄養研究所認定栄養情報担当者(NR)等の資格を有する。

特別寄稿

日本人が日本人であるための「道」

神社ライター　東條英利

日本には、世界で類をみない観念があります。それが、「道」というものです。私は、神社を研究している立場からその源流を「神道」に見出してきましたが、実は、これも途中から派生したものとなります。元々、「神道」という言葉は、日本書紀において、「天皇、仏法を信けたまひ、神道を尊びたまふ」という文面の中で初めて登場したことに始まります。

往古には、原始神道に通ずる「古道」という言葉があり、これが、日本国における最初の「道」という観念を引用した言葉になります。まさに、「道」という観念は、日本国創成の頃から歩んできた、日本人を代表とする言葉になるのです。皆さんご存じの武士道をはじめ、柔道、剣道、華道、茶道、合気道はまさに、その観念を継承した代表例と言えるでしょう。

では、そんな「道」という観念とはどういうものなのでしょうか。これを一言で申し上げるのは、空気を素手で掴むようなもので、一概に述べられるものではございませんが、敢えて申し上げるのならば、それは、「日本人が作り上げた社会と個人を対比させた究極の精神性」と言えるかもしれ一つの物事を自念の中より究極的に高めた独自の哲学」と言えるかもしれませんし、その受け取り方は個々それぞれの中に存在するものだと思います。

ただ、ひとつの特徴として上げるのであれば、それは、答えのない問いのようなもので、その永きに亘った精神との葛藤を、ひとつの「道」に喩えることができるのかもしれません。それは、神道の言葉一つを取ってみても、まさしく同じことが言えるのではないかと思っております。

例えば、神道とは何かと問われた時、現代人の多くは、宗教ではないかと安直な答えを以て臨まれる方が大半かと思います。しかし、それは、あくまで、宗教法人という便宜上の組織体を示しているに過ぎず、その本質を得ているとは言えません。その証拠に、宗教とは、その言葉が示す通り、「教え」という主張に集約されますが、神道の教えは何かと言われれば、その答えを上げられる方は誰一人おりません。なぜなら、神道には教えというものが存在しないからです。一応、標語のような形で、「敬神崇祖」という言葉もありますが、これも誰にどうやってという具体性は何一つなく、あくまでひとつの姿勢に過ぎません。

神道とは、森羅万象、あらゆるものに感謝をせよ、という畏敬の精神の極みであり、そこに他意はないのです。それは神社に鏡がある理由と同じく、「かがみ」の中の「が（我）」を引くことで神が現れる。信仰とはあくまで、鏡に映る己の中に存在するという非常に崇高な考えが示している通り、答えとはその人自身にあるということを暗黙裡に語りかけています。神社はそんな想いを具象化した存在であり、人間の心との葛藤の歴史を刻んでおります。日本人が日本人らしくあるために、今、「道」という心のあり方が大きく問われようとしています。

●プロフィール
1965年生まれ。第40代内閣総理大臣を務めた東條英機の直系曾孫。大学卒業後、東証一部大手通販会社へ9年ほど勤務。その内、香港へ4年ほど駐在し、海外金融ビジネスに従事。帰国後、Web事業に転身し、IT技能の基礎知識を修得。平成21年には、株式会社カルチャージを設立し、神社専門の情報ポータルサイト「神社人」を起案。全国8万社以上にも上る神社情報の体系化を推進し、失われつつある日本人の教養力・アイデンティティ教育の再生を目指した各種講演活動を全国的に展開。

「武士道」は世界平和の倫理規範に成る

京都府　浜村知成

武士道協会会員の浜村知成と申します。私の人生のテーマは「戦争の無い平和な世界を創る」ことであり、武士道の究極の理想である「平和」と同一です。「武」とは「戈」を「止める」と書き、「士」は究める者を意味します。つまり、武士道とは文字通り「争いを止めることを究める者の道」であります。江戸無血開城の立役者である山岡鉄舟は、剣の達人でありながら生涯人を殺めず、自らも一つの傷も負わなかったと言います。私は彼のように強い精神力を持ち、サムライの五徳（仁義礼智信）の中でも、とりわけ重要な「仁（惻隠の情）」の徳を持ち、世界平和を追求したいと思っております。

私は前述の人生のテーマを中学時代より持ち続け、現在に至ります（現在29歳）。同志社大学時代は「戦争と環境破壊」について研究し、卒業後はイギリスのブラッドフォード大学平和学部大学院で「世界政府の可能性」について研究しました。現在の世界はグローバル化により、問題が複雑化しており、一国だけでは解決し難い状況になっております。幕末時に坂本龍馬が「長州人や薩摩人と言っている場合ではない、我々は日本人である」と考えたように、「中国人やアメリカ人と言っている場合ではない、我々は地球人である」と考える必要性が出ているのではないでしょうか。

私は19歳の時から現在に至るまで、インドのマザーハウスでボランティア、中国三国志紀行、アメリカ大陸横断、ユーラシア大陸横断、エジプトオアシスの旅、ウガンダやカンボジアの孤児院視察、バングラデシュのグラミン銀行でソーシャルビジネスのプログラムを受けたりと、約30カ国を旅してきました。国境を陸路で越える時、「国境など存在しない、ヒトと文化が存在しているだけだ」と体感しました。各国（各地域）の文化と伝統、宗教を守り、自治を認めた上で、どこの国でも違法である基本的なルール（人を殺さない、人の物を盗まない）を人類共通のルールとする必要がある時期に来ているのではないでしょうか。自分の街に警察とルールがなければ、我々はまた刀（武器）を持つ必要が出てくるでしょう。自分の身を守ってくれる第三者がいなければ、人は「不安」になり武装化します。真の安全保障とは「不安」のない状態を指すのではないでしょうか（security ＝ ラテン語のse cura ＝ without concern不安のない状態）。こう考えれば各国の軍事力が「不安」の産物でしかないことが分かります。「平和（安心安全）」な状況を創ることは、個人レベルでの心の不安、村や町の不安、国の不安、国家間の不安、地球全体の不安を取り除いていく作業なのかもしれません。

儒教の『大学』では「格物、致知、誠意、正心、修身、斉家、治国、平天下」の８条目があるように、世界平和のためには、まずは個々の自己陶冶が必要です。究極の理想を平和とする「武士道」は己を修める倫理規範に成り得るでしょう。私は現在、自身の人生テーマである「戦争の無い平和な世界を創る」ことを企業理念とするユニバーサルピース株式会社の代表をしており、戦争の最初の原因である「食」に焦点を当てた飲食店「士心（ししん）」を京都にて経営しています。日本各地の郷土料理を国産で提供することによって自給率を高め、衰退している伝統文化を紹介することによって戦争予防の効果があるソフトパワーを高める努力をしています。

また、本年より世界を救う真のサムライを養成する「士心寺子屋」を開設する予定です（本年１月より、武士道協会人間力セミナーとして開設しています。裏表紙「セミナーのご案内」参照）。吉田松陰や西郷隆盛も学んだ陽明学の「知行合一」を軸に、私も微力ながら武士道の精神を学び、世界平和に貢献すべく地道な行動を続けたいと思っております。

会員様からのお便り

武士道に「日本人とは何か」の答えを探す

京都府　岡田直樹

武士道協会と私の出会いは約2年前に遡ります。当時の私はフランスのパリ郊外で駐在員生活を送っていましたが、周りは殆どフランス人という環境の中で、自分を日本人として意識する機会が数多くありました。ある日「そもそも日本人とは何か？」という根本的な疑問が頭を過りました。私は直感的に「武士道の中にその答えが隠されているのではないか？」と感じ、まずは武士道について調べてみようと思い立ちました。

しかしフランスでは十分に武士道について調べることができず、Googleで「武士道」というキーワードを入れて検索したところ「武士道協会」が見つかり、その名前に興味をひかれたのが出会いの始まりでした。

ホームページを見ていると、過去に財務大臣等の要職を務められ2003年に政界を引退された塩川正十郎先生が理事長をされ、役員にも著名人の方々がいらっしゃることを拝見し、ここでなら「武士道」が本気で学べると確信し、早速会員になることにしました。

フランスに住んでいる間はＤＶＤにて講演会や勉強会を聴講させていただきましたが、日本の外から日本や武士道について改めて考える良い機会になりました。

私は2010年4月に日本へ帰ってまいりましたが、入会当初より念願だった勉強会に参加させていただいたり、昨年発生した東日本大震災の後には本多先生と一緒に東北を視察させていただいたり、会員の方々と交流する中で「武士道」を一層身近に感じられる機会が増えてまいりました。特に本多先生には「武士道」はもとより神道や仏教など多岐に亘ってご教授いただきました。

今回は限られた誌面でございますが、本多先生より教えていただいた特に印象に残っている話を一つご紹介させていただきます。それは「武士」という漢字の語源についてです。まず武士の「武」についてですが、「戈(ほこ)」を「止める」という漢字に分けられます。そして「士」は究める者という意味だと教えていただきました。私は武士とは「戦わずして勝つことを究めた者である」と解釈し、目から鱗が落ちる想いがしました。それまで上手く答えられなかった「武士とは何か？」という質問に対する明確な答えがそれだと感じました。

そのお話を拝聴し、一つ思い出したのは第35代横綱・双葉山関が70連勝を阻まれた際、安岡正篤先生に「ワレイマダモッケイタリエズ」と電報を打った話は有名ですが、その木鶏の姿こそ武士のあるべき究極の姿ではないかという気がいたしました。

私は武士道を学び始めてから日も浅く、まだまだ「武士道」の海のような奥深さから比べれば、砂浜に打つ波に足を濡らした程度しか分かっていないと思います。しかし武士道を一生学び続け、あの時自問した「日本人とは何か？」という根本的な疑問に対して自分なりの答えを出したいと思います。そして本物の武士の姿に一歩でも近づけるように武士道協会での学びを日々の生活へ活かしていきたいと思います。

広報誌「武士道」、及び協会ホームページへの広告掲載のお願い

協会の活動趣旨にご賛同いただける企業様からの、広報誌『武士道』、ホームページへの広告を募集します。広告収益は、本活動を更に充実させていくために活用させていただきます。ぜひご協力をお願いいたします。
（内容は、勝手ながら、会社の理念広告に限定させていただきます。）

※ご検討いただけます場合には、事務局までご連絡ください。

【広告募集要領】

1.掲載及び広告料(年間契約)
広告料:年間 60,000円（法人会員価格50,000円）
内訳 ①広報誌『武士道』(年2回発行)に2回掲載 1／2段(50mm×85mm)
②ホームページに1年間掲載…50×13ピクセル
版下原稿はデータで提出ください。

2.単発掲載価格
①広報誌 20,000円／回　②ホームページ 5,000円／月

平成23・24年度活動紹介

平成23年

1月～12月まで　人間力向上セミナーを東京と関西で毎月各1回開催

1月　・新春特別企画「住吉大社参拝」【大阪】（会員:櫻井潤・晴子御夫妻様）

2月　・人間力向上セミナーにて、「武士道と医道」講演会開催 ―満員御礼―【東京子供村】

4月　・東日本大震災「祈りの言葉」&「祈りの言葉の返信」を発行

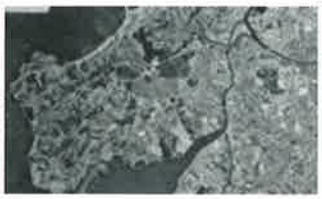
6月　・移動セミナー「大和心・生き方教室」【瀬戸内海・大崎上島】（会員:橋本裕一様）

・人間力向上セミナーにて、「医道と武士道」講演会開催【大阪倶楽部】（会員:高垣博様）

7月　・人間力向上セミナー東京の会場を湯島天満宮梅香殿に決定（現在毎月第4火曜日18:30～）

9月　・人間力向上セミナー熊本を安岡正泰理事講演で開催【熊本】（会員:平川雄二様）

11月　・東北義捐金寄付　関東・関西から会員&本多常務理事の計7名宮城訪問（会員:大木騏一郎様、菅原裕典様）



11月　・事務局信州松代視察（会員:中村小百合様、事務局手伝い）

・人間力向上セミナー東京で、麻生花児に学ぶ武士道開催（会員:松本ヒロ子様、松岡賢次様）

12月　・人間力向上セミナー京都終演後、泉涌寺内雲龍院参拝と見学（会員:廣森日出夫様、浜村知成様）

12月　・インターネットテレビ「世界最古の国、日本!」にゲスト出演。（23日）

あっ!とおどろく放送局 → 14ch ためになる → 「世界最古の国、日本!」

http://www.odoroku.tv/knowledge/jp/index.html

平成24年

1月　・神田明神、湯島天満宮初詣（会員:矢部義之様、岩瀬貴洋様、青山誠様 他）

・東北地区本部宮城支部設立準備委員会発会（会員:大木騏一郎様、菅原裕典様）

セミナーのご案内

●人間力向上セミナー≪東京≫
毎月第4火曜日18時30分～21時00分迄
於:湯島天満宮梅香殿2階
講師:本多百代武士道協会常務理事

●人間力向上セミナー≪京都≫
毎月第3土曜日10時30分～13時30分迄　*5月のみ13日 日曜日10時30分～
於:土心（烏丸御池駅2番出口衣棚通右折）
講師:本多百代武士道協会常務理事

●人間力向上セミナー≪鹿児島≫
2012年5月19日土曜日13時00分開場
於:天文館ビジョンホール（鹿児島市東千石町13番3号）
基調講演:安岡正泰理事
コーディネーター:本多百代常務理事、
パネラー:安岡正泰理事、篠浦伸禎都立駒込病院脳神経外科部長、
西郷隆文西郷隆盛公奉賛会理事長、

編集後記

大変お待たせした広報誌武士道7号をやっと発行することができまして、胸をなでおろしています。2011年は東日本大震災、和歌山大洪水、タイの大洪水など、世界中で命の大切さと生き方を改めて考えさせられる痛ましい天災が多発しました。お亡くなりになられた方々にはご冥福を祈念し、被災された方々には一日も早い復興を毎日心よりお祈りいたしております。そのような中で昨年は会報誌の発行を控えて被災地を訪問し、会員の皆様の大切な会費から、わずかではありますが震災孤児の支援に武士道協会としてJETOみやぎに寄付をさせていただきました。改めて、現代の武士道は惻隠の情であるとおっしゃった塩川理事長のお言葉が胸に染みました。やはり一人ひとりの平和なくして世界の平和は語れないという思いから、武士道協会の使命は、地球の平和を目指して地球市民一人ひとりが穏やかに執着をなくして幸せに生きる道標となるため、日本発の道徳心を発信し続けることと思っております。

武士道協会事務局
〒163-1320　東京都新宿区西新宿6-5-1　新宿アイランドタワー20階
TEL（03）5325-2660　FAX（03）5325-1618 URL：http://www.bushido.or.jp/
【関西地区本部】〒605-0079 京都市東山区川端通四条上ル 北座5階スペースラブ内 TEL075-231-2121
[九州地区本部設立準備委員会] 連絡先〒860-0005 熊本市宮内三番一号 熊本県護国神社内 TEL096-352-6353
[東北地区本部宮城支部設立準備委員会] 連絡先〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町2-5-4 ㈱清月記内 TEL022-782-5777

特定非営利活動法人
武士道協会
●武士道第7号
●平成24年3月発行

©武士道協会 2012 Printed in Japan.　無断転載はご遠慮ください。

お詫びと修正のお願い

ここもとお届け致しました会報誌に変更訂正が生じました。お詫び方々修正をお願い申し上げます。

【訂正箇所】裏表紙　セミナーのご案内

●人間力向上セミナー≪東京≫　＊12 月は湯島天満宮神職の講和を予定しております。日程調整中

毎月第 4 火曜日⇒ 4 月・5 月第 4 火曜日、6 月～9 月最終金曜日

10 月・11 月第 4 水曜日、12 月未定

【変更後】5 月 22 日(火)、6 月 29 日(金)、7 月 27 日(金)、8 月 31 日(金)、9 月 28 日(金)、10 月 24 日(水)、11 月 21 日(水)

●人間力向上セミナー≪京都≫

毎月第 3 土曜日・5 月のみ 13 日日曜日⇒毎月第 3 土曜日(5 月と9月除く)

【変更後】5 月 13 日(日)、6 月 16 日(土)、7 月 21 日(土)、 8 月 18 日(土)、9 月 17 日(日祝)、10 月 20 日(土)、11 月 17 日(土)

お手数をお掛け致しまして申し訳ございません。よろしくお願いします。

【寄付のお願い】 5ページ　**振込口座名**のミス

正：　2. 振込先：三菱東京UFJ銀行　新宿新都心支店

誤：　新宿副都心支店

【追記】千玄室会長　巻頭言　　**(外務省HPより転記)**

千玄室先生　ユネスコ親善大使の任命　　平成 24 年 3 月 6 日

1. 本 6 日(火曜日)(現地時間 5 日(月曜日))，フランスを訪問中の千玄室茶道裏千家前家元(第 15 代)は,パリのユネスコ本部において，イリーナ・ボコバ・ユネスコ事務局長(Irina Bokova, Director-General of the UNESCO)からユネスコ親善大使の任命書を授与されました。
2. 千玄室ユネスコ親善大使の就任により，ユネスコの目的や活動が一層広く紹介されるとともに，我が国とユネスコとの関係が強化されることが期待されます。

【参考 1】ユネスコ親善大使

ユネスコ親善大使は，ユネスコの活動を支持する各界の著名人から成り，ユネスコの認　知度の向上に貢献することを目的に設置され，千玄室茶道裏千家前家元を含め，世界各国の王族，芸術家，学者等現在 50 名が任命されている。平成元年からユネスコ親善大使として活躍した平山郁夫画伯が平成 21 年 12 月に逝去した後，日本人の任命はなかった。

【参考 2】 千玄室茶道裏千家前家元(第 15 代)

千玄室氏は，長年にわたり，世界各地での平和祈念の献茶をはじめ，総合文化である茶　道の精神を伝える行事を通じ，国際親善・交流活動や世界平和を希求する活動を活発に展開している。